

## 「ユキとニナ」 ★★★

2009（平成21）年12月24日

鑑賞<東映試写室>

監督・脚本：諏訪敦彦、イポリット・ジラルド

ユキ（フランス人の父と日本人の母を持ちパリで暮らす9歳の女の子）／ノエ・サンピ

ニナ（ユキの親友）／アリエル・ムートル

ジュン（ユキの母）／ツユ

フレデリック（ユキの父）／イポリット・ジラルド

カミーユ（ニナの母）／マリリン・カント

ユキの祖父／ジャン＝ポール・ジラルド

老女／森康子

日本の少女／今泉野乃香

日本の少女／新井亜莉沙

日本の少女／マオ・サンピ

日本の友達／大森百香

ラウル／ライアン・アラウイ

2009年・フランス、日本映画・93分

配給／ビターズ・エンド

### <私には、諏訪敦彦監督は苦手かも？>

08年から東京造形大学の学長職も務めている1960年生まれのスエドランド監督は、カンヌ国際映画祭でのさまざまな受賞をはじめとして世界的に有名な監督。私をはじめそれを知ったのは、ロカルノ国際映画祭で審査員特別賞を受賞した『不完全なふたり』（05年）を観た時だが、「作家性」いっばいのこの映画は私にはなかなか理解不能で、私の評価は星3つ。シナリオなしの即興撮影が彼の特徴らしいが、「でも、正直なところ、観ていると少ししんどいというか退屈してくるのは否定できないところ・・・？」と書いてしまった（『シネマルーム15』237頁参照）。

『不完全なふたり』は離婚を決意した15年目の夫婦が織りなすちょっと不思議な雰囲気映画だったが、9歳の2人の女の子を主人公とした本作も、ちょっと不思議な雰囲気映画。実際に日本人とフランス人の血をひくという9歳の女の子ノエ・サンピがユキ役になりきり、自由に伸び伸びとした演技を見せるが、例によって(?)私にはストーリー展開は少し退屈。ひょっとして、私には諏訪敦彦監督作品は少し苦手かも？

### <おとぎ話でも、「必然性」が必要では？>

日本でも『桃太郎』『舌切り雀』『浦島太郎』など有名なおとぎ話がたくさんあるが、私に言わせれば、これら有名なおとぎ話はストーリーの骨格がしっかりしているうえ、ストーリー展開の必然性が明確。しかし、諏訪敦彦監督が描く「おとぎ話」たる本作におけるストーリー展開の必然性は？

私が唐突に思えてならないのは、第1にニナ（アリエル・ムートル）と共に家出したユキが森の中を歩き回っているうちに、ニナと別れ一人森の中で暮そうと決心するところ。9歳にもなればそれなりの分別があるはずだから、森の中にかわいい家を建てて、食べ物は妖精たちが運んでくれるという発想はあまりにも幼稚？第2は、そんな決心をしたユキの目の前に日本の田園風景が広がり、「こんにちは、ユキちゃん！こっちで一緒に遊ぼうよ！」と日本の女の子たちに声をかけられ、さらに日本家屋の畳の上でカルタや座布団取りをして遊ぶこと。たしかにノエ・サンピの演技は自然だが、これって一体ナニ？ユキはパリに住んでいたはずでは？そして、森へはニナと共に電車に乗ってやって来たはずでは？

さらに私が納得できないのは、古い日本家屋で友達や老婆に別れを告げて森に出たユキが、たまたまそこでユキを捜しに来た父親フレデリック（イポリット・ジラルド）に遭遇すること。いくら即興で撮影するのが特徴といっても、そんなご都合主義でいいの？ひょっとして、諏訪敦彦監督はストーリー展開の必然性はどうでもいいの？おとぎ話でも、やはり必然性が必要では？

### <共同監督の試みの成否は？>

私は去る10月6日親友の塩屋俊監督の新作『ふたたび』の撮影にエキストラとして参加したが、そこではじめて感じたのは映画撮影の現場の緊張感と監督の絶対性。カリスマ的存在だった黒澤明監督の言葉が絶対だったことは有名だが、今でも映画撮影の現場では〇〇組、△△組と監督の名前で呼ばれることが多い。これは、映画づくりにおいては監督の決定権が絶対だということの象徴。つまり、すべての撮影は監督の「アクション・スタート！」で始まり、「カット！」で終わること、またオーケーかどうかの判断もすべて監督が握っているためだ。

ところが、プレスシートにある吉武美知子氏の「プロダクションノート」によれば、諏訪監督の映画作りの信念は「映画は監督が一人で全てを仕切るものではなく、役者もスタッフも能動的に作品に参加して、作品を監督一人の想像力を超えた豊かなものにしよう」というものらしい。そんな考え方の延長として、本作はフランスの名優イポリット・ジラルドがはじめて監督として諏訪監督と共に名前を連ねている。前述の「プロダクションノート」を読む限り、必ずしも2人の監督の意見は一致しなかったようだから、節目節目での意見の対立は？さらに、最終の編集段階での意見の衝突は？

現在ロシアはメドベージェフ大統領とプーチン首相との「二頭政治」が続いているが、その力関係に微妙なものがあることは明らか。また日本でも、政治主導を目指す民主党は政府に政策を一元化することを目指して党の政策調査会を廃止したが、小沢一郎幹事長（党）と鳩山由紀夫首相（政府）との力関係は？そんな風に考えれば、本作における諏訪監督とイポリット・ジラルドとの共同監督の試みの成否は？

2009（平